

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0970101424		
法人名	有限会社シルバーケアサービス		
事業所名	グループホーム寿楽壺番館		
所在地	栃木県宇都宮市鶴田町2854 (電 話) 028-614-1771		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年8月27日	評価確定日	平成19年9月18日

【情報提供票より】 (平成19年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤4人, 常勤換算4.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1~2階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費-20,000円 理美容代 おむつ代 居宅療養管理指導費 薬剤費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200	円

(4) 利用者の概要(平成19年7月20日現在)

利用者人数	8 名	男性	名	女性	8 名
要介護1		要介護2			2 名
要介護3	2 名	要介護4			4 名
要介護5	名	要支援2			名
年齢	平均 83 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひばりクリニック・岩本歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム寿楽は、平成13年1月に宇都宮市で最初に開設されたホームである。建物は、社員寮を改修した鉄骨造りの2階建てで、住宅地に位置している。ホームの前後は民家の畑になっており、静かで温かな家庭的な雰囲気だようホームである。管理者・職員は、「一人ひとりの笑顔を大切に」を理念とし、「その人の日」を設けて重点的に一人の入居者の希望に添った支援をするなどしている。開設以来の入居者が約半数おり、認知症も中期から後期の方も多くなっている。終の棲家をホームと希望する方もあり、確認を繰り返しながら、在宅診療に熱心な協力医の支援のもと、職員間で話し合い、ホームで出来ることを見極め、家族の協力もあり最期を迎えられた方もいる。運営推進会議も2ヶ月に1回開催され、3回目からホームで行い入居者と地域の方たちとの交流が深まっているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	階段の木製手すりの取り付け、デッキテラスの設置・安全なスロープの取り付け、寿楽たよりの発行など、少しずつ出来ることから取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	管理者はホーム以外の仕事も兼務しているため多忙であり、職員と話し合う機会がもてず、自己評価の取り組みは一人で行った。今後は、職員に評価の意義を伝え、職員と共に自己評価を行い、その過程を大切にしながら検討していくことを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は、昨年6月から2ヶ月に1回開催されている。メンバーは、地域住民代表・家族・地域包括支援センター職員・協力歯科医・第三者委員・本社・ホーム職員である。3回目からホームで会議が行われ、入居者の生活ぶりを見ていただきながらの入居者参加型の会議になっている。内容は、ホームの成り立ち・活動状況・アンケート結果報告・意見交換などである。今後は、認知症の勉強会や災害訓練を地域住民と共に行う事も考えている。外部評価の結果を報告し、そこで出た意見を参考にして、質の向上を図っていくことも期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族会はなく、時々不定期にアンケートをとっているが、特に苦情はない。面会時に声かけし、話していただけるよう雰囲気を大切にしている。メールで家族から意見や希望を聞くこともある。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	開設後、自治会に加入し敬老会や運動会に招待され参加している。近くにスーパーがあるので、散歩や買い物を兼ねて外出している。運営推進会議の開催により、ホームで昔の遊びに興じたり、芋煮会を共に味わったり、地域の方から野菜の差し入れがあるなど、連携が図られてきている。
	重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の思いを受け止められるサービスを提供していきたいという思いから、管理者と職員で話し合っ て、「一人ひとりの笑顔を大切に」をホーム独自の運営 理念としている。また、基本理念として「一緒に・ ゆっくりと・楽しくをモットーに地域の方々との関わり 合いをもちながら毎日笑顔で過ごせるように」と 謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を、玄関や廊下・ホールなどの目につきや すい所に掲げている。管理者・職員は理念を共有し、 理念の実践に向けて日々取り組んではいるが、業務の 忙しさに流されている面もある。	○	業務の忙しさの中でも、ホームとして毎朝のミー ティング時に理念の再確認を行いたいと考えているこ とから、更なる理念の共有を図りながら、理念の実践 に向けての取り組みを充実していくことに期待した い。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	自治会に加入し、敬老会や小学校の運動会に招待さ れ参加している。ホームの旅行の際は、近所の方に留 守をお願いできる関係がある。昨年からは始まっている 運営推進会議にも地域の方の参加があり、ホームでの 開催時は、昔懐かしい遊びなどを通して交流などもし ている。自治会の回覧板にホームだよりをのせてもら い、気軽に遊びに来てくれるよう呼びかけなどしてい る。	○	ホームとして地域とのつきあいを深めていくために 認知症について理解していただく必要性を感じてい る。運営推進会議でも行事を通してのホームからの情 報発信やボランティアなどについて議題をあげて地域 との交流を深めることを模索しているので、更なる取 組みの充実を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	今回の自己評価は、多忙も重なっていたため管理者 がまとめた。前回の外部評価の要改善点については、 階段の手すりの取り付け、デッキテラスづくり、「寿楽 たより」の発行など、可能なところから取り組んでい る。	○	運営者・管理者・職員が一体となって自己評価及び 外部評価を実施することで、評価の過程を大切にしま ながら、更なるサービスの向上につなげていくことを期 待したい。

グループホーム寿楽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の6月から、住民代表・家族・地域包括センター職員・歯科医師・第三者委員・本社・職員などが参加し、2ヶ月に1回開催している。3回目からホームの食堂で開催し、入居者も参加し、共に時間を過ごし生活を見て頂く取り組みも行っている。内容は、活動報告・虐待問題アンケート結果報告・地域との関わり方、意見交換などである。外部評価の結果は報告していない。	○	今後、外部評価結果と改善の取り組みについても報告し、助言・意見をいただきながら、サービス向上に活かしていくことに期待したい。運営推進会議の中で、認知症グループホームについての勉強会を検討中であるが、実行に向けての検討をすすめていくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新申請時に市へ出向いたり、その他の福祉制度関係での連携はあるが積極的な連携は十分とはいえない。運営推進会議には、市の委託している地域包括支援センター職員の参加はある。	○	市の事業内容を広報誌等で把握し、ホームからも市へ積極的な働きかけやアピールを行いながら、市とともにサービスの質の向上の取り組みをすすめていくことにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2~3ヶ月に1回、入居者の暮らしぶりや健康状態、購入物品の明細を担当者が記載して家族に報告している。寿楽たよりも送付している。メールや電話で報告することもあり、一人ひとりの状況に合わせて対応している。職員の異動は、不安を考慮し書面では報告していない。担当が変われば紹介している。	○	職員の異動に関して、「寿楽たより」等を通してお知らせするといったことにも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、職員から声をかけて気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。定期的に宿泊される方もいる。外国に滞在されていた家族とメールでやりとりをするということも過去にあった。運営推進会議には家族にも参加していただいている。なかなか来られない家族には、ホームに来ていただける機会を増やせるような取り組みを検討中である。苦情解決のための第三者委員も確保しており、重要事項説明書に、ホームの窓口、市、国保連の窓口と合わせて明示している。	○	運営推進会議に参加できない家族やホームを訪れることが大変な家族などからも建設的な意見や希望・苦情などをいただき、それらを運営に反映させていけるような配慮・取り組みなどにも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の相性があり、きめ細かいサービス提供にむけ、担当者を決め、1対1あるいは1対2で支援している。相性の良かった職員が退職した場合、入居者への影響を配慮して、できるだけこまめに声かけをするなどの配慮している。		

グループホーム寿楽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会の研修には参加しているが、段階別研修には一部のみの参加である。月1回の会議時に、研修会の報告や資料の読み合わせを行っている。外部研修は職員の相対的な人員不足もあり、希望があっても沿えない現状である。	○	職員が研修に参加しやすいような運営面でのバックアップも含めて職員を育成するための研修計画をたて、内外研修の機会の確保に努め、働きながらトレーニングしていくことのできる環境を整えていくことに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会の後の話し合いで、近隣のホームと交換研修を2回行った。サービスの向上につなげ、振り返りのよい機会になったと捉えている。	○	他事業所との交流を継続的に実施しながら、更なる質の向上につなげていくことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、説明や見学のほかに体験入居の機会を設けている。期間は、一人ひとりの状況をみながら、1日（数時間）～2・3日、1週間などであり、家族にも参加していただきながらホームに馴染めるような配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器洗い・配膳・食器運び・洗濯物たみ等、一緒に過ごし喜怒哀楽を共にしているが、入居者の重度化が進むにつれ、身体的ケアが多くなり、相対的な人員不足も重なり、支えあう関係づくりの困難さが目立って来ている現状がある。	○	入居者の重度化の中でも、共に暮らす者同士として「喜び・楽しみ・こだわり・苦しみ・哀しみ・不安」などの入居者の思いに寄り添いながら、日常の中での支え、支えられる関係を継続していくことに期待したい。

グループホーム寿楽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前やケアプラン作成時に、センター方式のアセスメントシートにより生活歴の聴取を行って、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。「その人の日」を設け、外出・外食等の希望を優先し、介護度の重・軽を問わず、美容院に行ったり、家族と共に過ごしたり一人ひとりに合った対応を行い、本人本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はケアマネジャーが本人や家族の意向を聞きながら作成するようにしている。介護計画について家族に説明はしているが、作成段階での話し合いができないこともある。担当職員が日常生活にあった工夫をしながら、また家族の意向も聞きながら支援に取り組み、支援の中での職員の気づきなども月1回のミーティングで話し合い、計画を作成している。	○	センター方式のアセスメントにも取り組んでいることから、本人や家族、関係者の意見や職員の気づき・アイデアなどの情報を増やしていくことで、「地域でその人らしく暮らし続けること」を支えていくための介護計画の充実につなげていくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1回行っており、月1回のミーティング時に担当者から経過報告がなされ、意見交換を行っている。入居者の体調が「良くなった・悪くなった・また戻った」など変化する場合もあり、緊急性のあるものは連絡ノートを利用しているが、現状に即した新たな介護計画にはいたっていない現状がある。	○	入居者の重度化、多忙、職員不足はあるものの、定期会議のみでの取り組みの他に関係者と臨時に話し合い、現状に即した新たな介護計画の作成が期待される。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。本人・家族のその時々々の状況や要望に沿った柔軟な支援（例えば、旅行の計画・実施など）に努めている。		

グループホーム寿楽


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、1階・2階ごとに往診があり、入居者は2週に1回の診察を受けている。協力医は、在宅診療を積極的に行っている医師であり、個人の診察結果のコメントを家族に渡している。専門の医療の受診が必要となった場合、協力医が紹介し連携をとってくれている。必要時には、家族・協力医・管理者で今後のことについて話し合いや相談をすることもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設以来の入居者が約半数おり、要介護度が高くなっていく現状の中で、状態の変化時・悪化時・ターミナル受け入れ時など、入居当時から段階に応じて何度も意向を確認し対応している。職員と相談し、ホームで出来ることを見極め、協力医と連携しながら支援している。ターミナル期であった入居者が回復し、元気になり食事も自分で食べていた。ホームでターミナル期を経て、家族の協力もあり最期を迎えた入居者もいた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	以前、重度化した入居者への「赤ちゃん言葉」などが一部の職員に見られたことがあるとのことだったが、管理者の指導により、入居者の心をくんだ言葉かけをしていた。居室への入室の際にはノックをするなど、はじめのある対応がみられた。外部評価訪問調査時の居室の視察・書類閲覧など、個人情報に配慮した対応であった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の過ごし方を把握し、食事・入浴・入眠・起床・外出・散歩など、一人ひとりのペースを大切にしている。その日をどのように過ごしたいかを聞きながら、重点的に一人の入居者の希望に沿って支援する「その人の日」などの工夫もしている。		

グループホーム寿楽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、月曜日から金曜日まで食材の宅配を利用して、職員が中心に調理している。土・日曜日は、好きなメニューで調理している。入居者はごく自然に配膳の手伝いをしたり、時には味見をしたり、片づけをしている。約半数の方が、声かけや見守り介助が必要であるが、職員も一緒にテーブルにつき、状況を見ながら支援していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は1階に1ヶ所であり、1階・2階の方が1日おきに入浴している。職員1名が見守りや声かけ、一部介助などをし、1対1でゆっくり会話しながら入浴を楽しんでいる。重度化に伴い、職員2人で介助する場合もある。今のところ夜間入浴の希望はなく、職員の対応が困難なこともあり昼間の時間帯に入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片づけ、食器洗い、ランチマット干しなど、自主的に行っている入居者に他の入居者が「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えていた。誕生会・節分・ひな祭り・節句・七夕・芋煮会など、季節に合わせた支援をし、入居者にとって楽しみごとにもなっている。運営推進会議において、昔懐かしい遊びや芋煮会を通して交流を深める機会になり、入居者の張り合いや喜びにもつながった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暑い時、寒い時を除いて週1回位のペースで戸外に出かけられるよう支援している。外出時には約半数の方が車椅子を利用している。「その人の日」を利用し、希望に沿った支援の充実に努めている。外気に触れながら、テラスで花見をおこなったこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関入り口のスロープは急であり、道路に面した危険性回避、防犯の意味もあり施錠していることが多い。管理者が在勤している時は、鍵をかけていないことが多い。職員は会話を通して、外に出たくなる理由や行き先などの把握に努め支援している。テラスにスロープを取り付け、車椅子の出入りはそこから行っている。過去に不意に出て行かれた方がおり、近所の方の通報で交番から連絡が入ったことがあった。	○	今後も外出傾向を察知すると共に、さりげなくついて行くなど、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えていくことに期待したい。また、運営推進会議で地域との連携も探っていることから、地域の方たちの協力も得ながら、鍵をかけないケアの取り組みを充実させていくことに期待したい。

グループホーム寿楽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導のもと火災時の避難訓練を実施し、マニュアルも作成し、入居者が安全に避難できるよう取り組んでいる。地震や水害を想定した訓練は行っていない。運営推進会議でも話題にし、地域の人々の協力が得られるよう、共に訓練を行える取り組みを検討中である。	○	運営推進会議で検討している地域の方たちとの訓練の実現に期待したい。また、有事の際に地域の方がたと協力し合えるような体制づくりについて話し合っていくことも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	最近になって、食材やメニューは宅配業者に委ねている。栄養バランスは、宅配業者の栄養士により管理されている。1日1,000~1,300kcal、水分は1,200mlを目安にしている。毎食、業務日誌に食事・水分の摂取量を記載している。入居者の状態に応じ、粥食・キザミ食など提供されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	社員寮を改修した建物という構造上の難しさを抱えながらも、玄関には麻の葉のタペストリーを飾り、水鉢に季節の花を生けて廊下に飾り、家庭的な生活感が漂っていた。要所には温度計が置かれ、状況をみながら室温を調節し、日差しはカーテンで調節し、換気も随時行っている。狭いスペースながらも、入居者・職員が一堂に会す場として食堂があり、そこで過ごしている入居者が多かった。階段の壁側に木製の手すりが追加されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階の5部屋は和室であり、1階の4部屋は洋室である。全室南向きで、出窓やテラスがある。つくり付けの棚とクローゼットはホームで用意し、その他に入居者・家族の希望や意向で、ベッド・タンス・テレビなどを持ち込んでいる。週1回、定期的に入居者の居室に宿泊する家族もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。